

近年、富裕層やインバウンドの誘客による観光振興に取り組む地域が増えている。当社が拠点を構える三重県においても、2023年に、伊勢志摩および周辺地域が「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり（観光庁事業）」のモデル観光地に選定され、現在、「高付加価値旅行者」（一度の来日で百万円以上を使う旅行者）の当地域への誘客促進に向け検討が進められている。

伊勢志摩地域と言えば、伊勢神宮という誰もが知る観光名所が所在していることに加え、豊かな水産資源にも恵まれている。特に、伊勢エビやアワビなどは、地域を象徴する高級食材として確固たる地域ブランドを確立している。

このように、強力な地域資源を擁する伊勢志摩地域であるが、足元では、伊勢エビをはじめとする水産資源の持続可能性という課題にも直面している。具体的には、気候変動による海の環境変化や、乱獲や資源管理の課題といった複合的な要因により、漁獲量

が減少しているという。観光事業者にとって、地域イメージを象徴する資源の確保は深刻な問題である。さらに、観光地における食事体験として、旅行者が期待する地域の食材が提供困難となれば、旅行者が地域に抱くロイヤルティが低下するリスクもある。地域の観光産業として高付加価値化を目指すのであれば、この問題に対処する方略の検討が必要だろう。

これらの課題への対応策として、筆者は地域資源について、「ポートフォリオ戦略」の視点から検討することを提案したい。

ポートフォリオ戦略とは、単一の資源に依存せず、複数の資源を組み合わせることでリスクを分散し、持続可能な成長を実現する考え方である。観光地における地域資源のマネジメントにあてはめると、一部の象徴的な地域資源に過剰に依存することなく、新たな地域資源の発掘とブランド化に向けた活動を並行しながら、「地域資源全体」として一定のブランド価値を

醸成していく戦略と言える。

無論、このような発想は、実践すること、そして成果に結びつけることは簡単ではない。しかし、足元、伊勢志摩地域で検討されているように、地域の観光産業が「中長期的に」「持続的に」「高い付加価値を提供し、地域経済を牽引する存在となることを志すのであれば、特定の地域資源に依存し、自然環境のリスクに過剰に晒される状況は、戦略的に回避していかなければならない。

筆者は、地域資源のポートフォリオ戦略の推進にあたり、資源同士の「組み合わせの魅力」を意識することがポイントだと考えている。たとえば、「魚介」や「野菜」という直接的な「素材」のブランド力だけで勝負することが難しい場合でも「伝統的な加工・調理」という「提供プロセス」をブランド化することで、「料理」という全体のブランド力を高めることもできる。このように、「地域のポジティブな個性」を発掘し、掘り下げ、組み合わせの

中部経済新聞 経済レーダー「地域資源のポートフォリオ戦略」

2025年2月 14日掲載 株式会社百五総合研究所 地域調査部 主任研究員 中村哲史

中で地域ブランドに昇華させていくことには創意工夫の余地もありそうだ。

ただし、これらの取り組みを進めるためには、地域内の多様な主体の連携による粘り強い努力が求められる。しかし、その努力の過程が地域の観光産業全体の相乗効果を生み出すコミュニケーションの基盤となり、結果として、観光地が更なる飛躍を遂げることにつながることだろう。持続可能な観光産業に向けて、「地域資源の総合力」の向上に期待したい。